

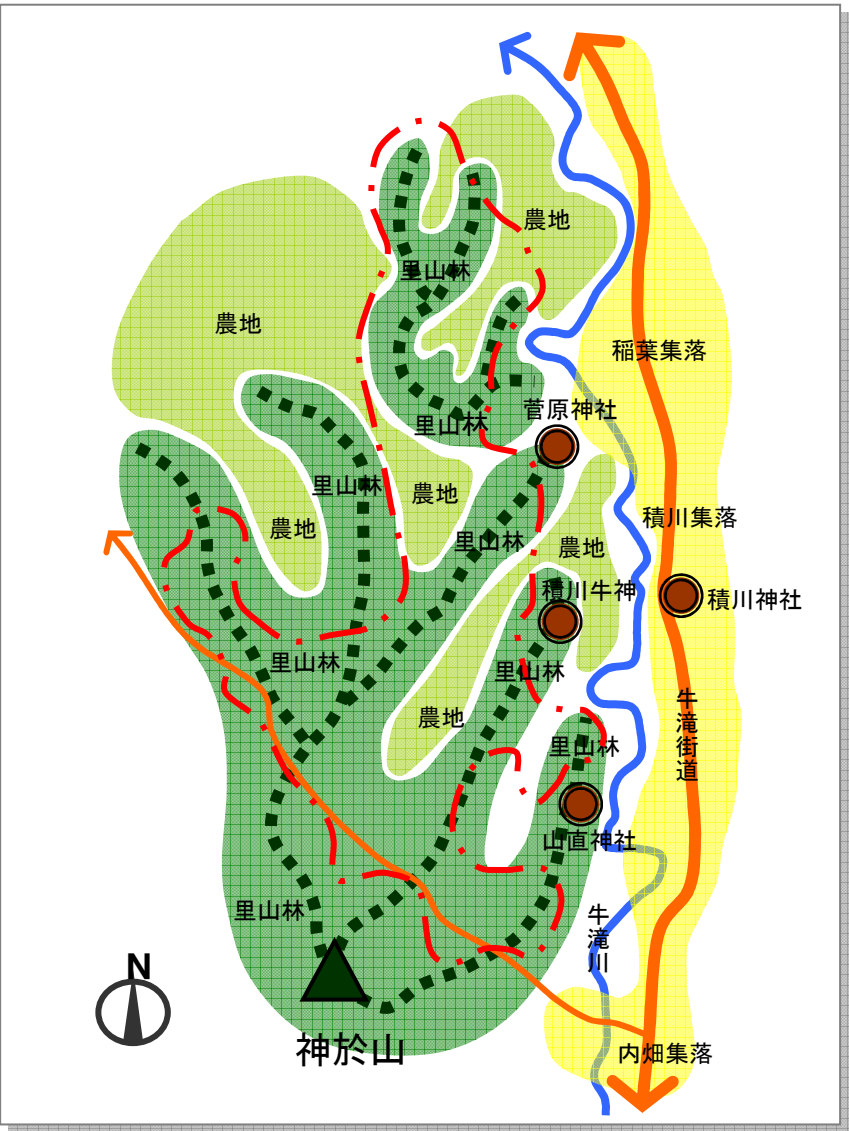
丘陵地区の環境形成コンセプト

神於山と一体になった、環境構造の再生

- 周辺地域を含めた、緑のネットワーク構造の再生
- 地域の歴史要素を保存・活用した、風土構造の再生
- 地域全体と連携した、生態系構造の再生

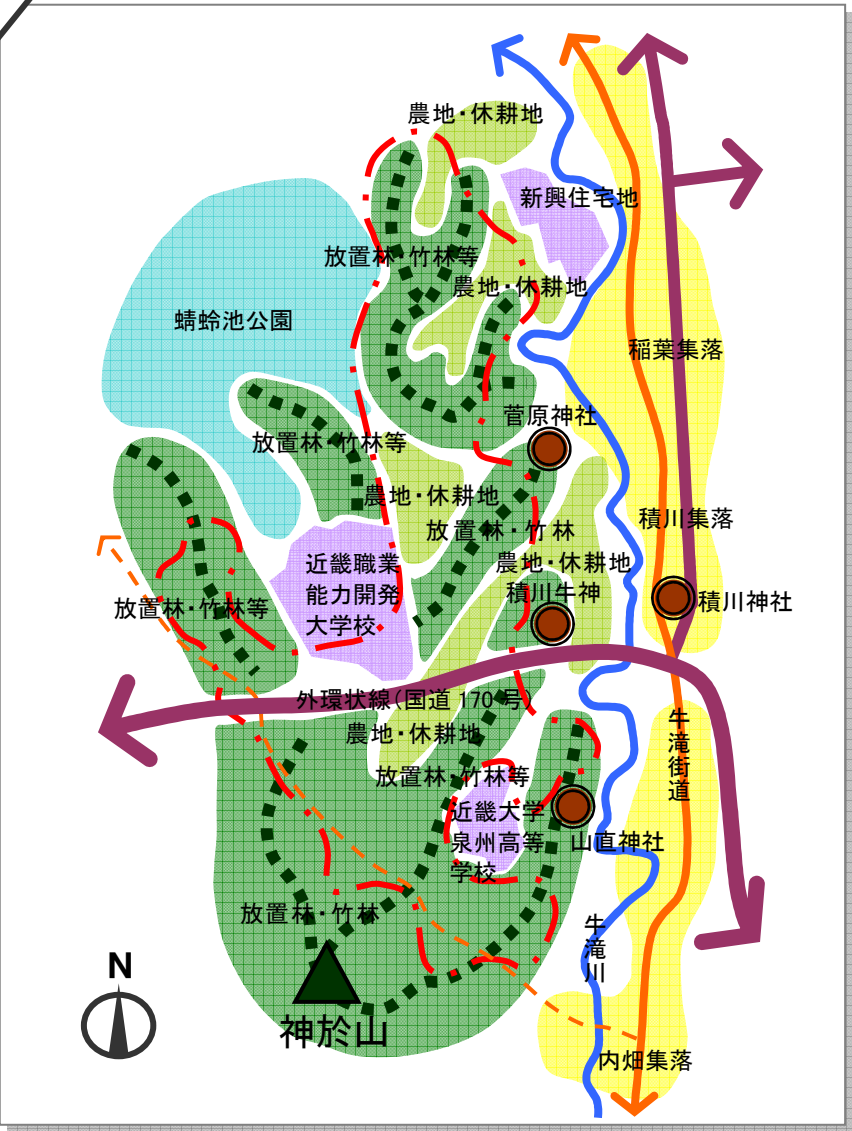
① 丘陵地区環境構造の原風景

神於山から指状に張り出した尾根筋や牛滝川といった自然的要素と、牛滝街道や街道集落といった人文的要素がセットになり、また谷筋は農地、尾根筋は里山林といった土地利用がなされ、これらの構成要素が一体となって環境が形づくられてきたと推測される。



② 丘陵地区環境構造の現状

外環状線等の整備により神於山から連続する環境空間が分断され、本地区の環境基盤である里山林や農地が細分化されている。また、放置林、竹林、休耕地が増加し、本来の生態系が変化しつつある



③ まちづくりに求められるもの

丘陵地区における新たなまちづくりを契機に、周辺地域を含めた緑のネットワーク化を図り、神於山からつながる緑地の流れを再生する。また、周辺地域で行われている里山再生の取組みとも連携し、地域全体としての生態系の保全を図る。

